

【志 風の式に】

京都市立下京中学校
校長 安居 昌行

「3週間続ければ一生が変わる」

4月7日に始まり、翌8日の入学式からスタートした「志 風の期間」も7月18日の「志風の式」でもって一つの区切りとなります。この3か月余りの期間で、生徒の皆さんは勉学に前向きに取り組み、様々な体験をしながら、成長しました。また、学年や学級、生徒会活動や部活動など様々な場面において、すがすがしい「風」を吹かせてくれました。時には地域での消火活動で消防署から表彰されるなど、地域でも素晴らしい「風」を吹かせてくれた生徒もいました。

さて私は、年度のはじめに教職員や生徒の皆さんに主体的に学校づくりにかかわり、実践し点検していく視点として『三つの「間』』を意識して取り組んでほしいという提案を行いました。三つの「間」とは『空間』『時間』『仲間』です。物理的な空間や時間、心理的な空間や時間を見直そうというものです。この間、過ごしやすく安心して勉学に励める空間を創れたか、限られた時間をどのように有効に使ったか、仲間を大切に、共に切磋琢磨して成長していくことができたかなど、教職員や生徒の皆さんと夏季休業に入る前に確認しました。

学校は明日から夏季休業に入ります。これまでと違った生活空間の中で、自分を磨くこととなります。また、30日あまりと休業期間は長いようですが、ただらと過ごしてしまうと時間はあっという間に過ぎてしまいます。そこで、私から一つの提案をしたいと思います。それは、強い意志をもって「新しい習慣」を創ろうということです。ロビン・シャーマンという人は『3週間続ければ一生が変わる』という本の中で「新しい習慣は、新しい靴に似ています。最初の2、3日はあまり履き心地がよくありません。でも3週間ぐらいたつと慣れてきて、第二の皮膚のようになるでしょう」と述べています。朝早く起きて、読書をしたり、運動をしたりと、これまでの自分はなかった習慣を創り、継続して取り組んでみましょう。休業明けには、仲間と出会いちょっと変化し成長した自分があることに気づくことができると思います。

8月25日、元気で大きく成長した生徒の皆さんと出会えることを楽しみにしています。



〈伸びる竹 上桂地蔵院にて〉

志は高く、学びは深く、出会いは広く、竹のように空に向かって伸びていきましょう。